

雜

談

集

下



雑談集



諷を俳諧の源氏なりとせしむるを
 向の格とせしむる百番のくもを
 目よりつ詞平^三近きとせしむる
 吟^{トキ}中^キをありかやとせしむる
 自句他句れきとせしむる
 うらむつその程よ自他とせしむる
 けし^{フモヒナ}けし^ナけし^ナけし^ナけし^ナ
 けし^ナけし^ナけし^ナけし^ナけし^ナ

さうさばよまらせうと島おほいし
思ひくはるるおし江口の里は
てもねとも侍かいら成人時多梅翁
と云句を詠りて其實と物さ所
肌骨よ入て情おももあつひ元附
るる初をなうつあよ大津よ
雪の日や船はとらる影の色其角
とくける次乃年のは
花の陰うひ子似ら旅宿か芭蕉

とけあさり物とと章なくと能
潜乃初これ世へさよとと思ひ迄

憶芭蕉翁

其角

月華や洛陽のる社跡をく

ほせよとみおる 叢東 溪石

その巢も次韻の真よほころひ 揚水

こしらへては蟹の味ひ 普船

上田を何くくも苗のはや 仙化

未月叢東の水の宗川 角

何ナニのコトもモ先マへハくクはハるルはハまマのノ脚タラシ石
ツツミのノ箒ハもモかカりリにニ傘カサ水
玉タマのノ御ミ堂タをカ瓦カ下カ地チをカり
鳥トリのノ出デ立テ三ミ條ジョウのノ音ネ化
糸イト登ト子コかカくクげゲてテあアもモはハ菊キクのノ虫ムシ角
盤イタ竈カマドのノおオをオさサらラくクてテるル柿カキ石
小コ坊ボウのノ藝ゲイのノ敷シキをオもモすス月ツキのノ友トモ水
町チヨウ完カンのノほホのノ祭マツル禮レのノ園エン如
うウちチひヒくク酒サケをカ庭ニにニ涼スズクむムんン化

をオおオせセしシとト餅コシ種タネをオ干カすス角
あアくクくクれレ十ジュウ夜ヤのノもモちチをオ案アけケりリ石
甲カウ斐ヒくクあアなナくク旅リてテ子コをオ産ウむム水
船フネのノ香カをオいイらラくク子コ薰タキけケるル水
昼ヒル時トキかカなナはハ恋コイのノ悪キル物モノ化
角ツノのノつツぶブをオ食クのノ去ク閑カ人ヒトをオれレ水
苔ケれレ下シまマくク路チをオりリ墓ハカ石
くク山ヤマ佛ブツはハ信シンのノとト母ハハ啼ナク水
膚ハダのノ百ヒャク首コウをオまマれレ夜ヨのノ月ツキ水

舟 遠ニひの船フネもしつの巳ニの後化
なも神カミの船東ト海ウミの吹角
揚ト貴キ妃ヒメの形まつつある山うつ石
瘰ヒヨウ疔シのまふ下すの泪ナミもあみ
足タ入イるはらも自ヨふ餅の米船
志シとく寒サムくある雨化
亭テイ主ヌ婦メの形まつつある山うつ角
るやらまの丸馬ウマ船フネあい音ネ石
麻アサあまの山あの静シズカなる水

めくを枝打ウの傍正マサの谷船
目メの玉の出るまり目あまる化
空カラ死シの形まつつある山うつ角
朝アサまの丸ウマの丸をまる山うつ石
ほろまれ口クチを焼く名もある水
かいげまの丸をまる山うつ船
五イツの四ヨツのおもくまの鐘化
御ゴ神カミ真マコト子コの形まつつある山うつ角
かかつまの顔をひく女房ムスメ石

逸みして二交びつらりの殺しがり

漏ワキ口とせえてかゆる湯のケラ膚

いそりく蕎麦うつふ化のタスキ袷ケけ

さつくと船を走らぬ紫蘇の實ニ

蔀シタミはる水のぬ陰のつれしれ

力ヒラクモを壑錢ヒラクモを巻ふ水の月

斬キたのちをむよふ糸の情也

酔目らあゆるこの梅の下外

江戸の水三十川の安き角平

必スくゆる東申の霄

俗アカ名を崇アカむる津を所ノ

碑ヒよりなる海ノの香ノの墓ノ

志丹地あむひつちりいれ芥ノのむ

物ウナキをうりかてを鼠と依大

約ウナキしてウナキ幾ウナキもむる苞の肉

板ウナキをうりかて酒ひやを舟

日盛をいセキタ雪セキタ踏セキタのそりかゆる

紐ウナキと井ウナキのりウナキを人ウナキを教

水 船 化 角 石 水 如 化 角 水 如 化 角

石 水 如 化 角 石 角 化 船 水 如 化 角

銅蓮の水子 霏霰の影下 角
木の糸は 蓮柱を 干らん
夕月子 茶入を 鼻 賤 水
古く 精麩を 表る 船
一面 下り 所 承乃 多 替り 化
襟 膝 盛 角
世間 氣子 白髪 下り 石
同 一 文 侍 勢 の 話 筆 角
秋 くの 盆子 の せ ち 藤 籠 船 角

あつらひ 漕ヶや 夕水 化
一ニ三 森ハ景のよ 能目 角
花の 子 海 小 娘 乙
御名 師が 中 水
た 神の 神の 陽 船
鳳 輦を 大和川 化
次なる 武者の 角
名月 下 破 詠 詠の 所 石
尾 招 水

幸いれくす由土のなぶれり右丸
土佐の歌仙もくろくしき 磔
佛のし禪としぬるるの所 角
瘡のぬぬあまの食をるぬる 右
子療治り心一ツをさつひひ
くゆるもくろく紅の目ぬる 水
唇の鼻紙とあまを扱女めく 化
おもひあまる 梨の切口 角
當日の位牌のあは月の影 石

萱乃敷構の苔子ゆめし
幸崎くくすしきしはあのみ 舩
心をつむろしきえし地灯 化
出あくと千人切をよびあを 角
去りけつてのくも假初の瘧石
活瘡のかりぬ程も新んぬ 角
清少納言 枕はひりし 舩
時人の雑談集を 花をくく 化
白き友松をくくし凡中の尾 角

老うゆりもはけりしはねた珠丸糸石
くさうもさくちん元領の声水
大計のききこちよ煮出し籠船
宿もさくちん本陣の幕化

七月朔日新祝調子

呈鏡

うげて縁俵ふ巻もうらう桐の乳 具角

つばるも色みれし文月の尻彫棠

長くうりあうらうまのりて肅山

二

目まのこけ桐の葉かれなうらか 全

たぢりこつ先子煮り宿より 角

上中と酒とのある月侍 棠

桐乃葉を東に吹く三日の月 棠

高き松をよと進みたり秋 山

すまのびよ古き男ハ馳走し 角

六月の日のあけに秋岡の石松

ささりし一夜吟

相のそや土用の中をそと幾日 彫棠

巻をたよむ所よ夕立 其角

入川に舟をよみ舟の楫をり 今

十一日 晴

橋をたよみよあけのちりし 棠

月をたよみ立くおせし 今

膝を冷やぬ一と三痛の秋 角

控えてし腰をたよみ固ま 棠

目張をたよみ二階のあせ 角

あけのちりしをたよみ入て 棠

片をたよみ指をたよみ 角

端舟をたよみしよ川をり 棠

立し形をたよみ幣のたよみ 角

支那の警束とてし酒の時 棠

四喜此秋ん子菟上あ山 角

齒のゆめを書きよむ初窓の 棠

蘭のつらつらと風やさし 角

よりと子瓶をのりし花の時 棠

僧をもつてしる但樂會の拜 角

小僧の子又達也はもれ菴 全

蓮の所の定まりし國 棠

杖の光ゆるり子突たん 角

石切のそと川を雨落 棠

とが奥をあらや清見寺 角

才五給とみゆら松の掛 棠

新のほとあ代をそく人徳風 角

掃金をさへくもあ 曉 棠

新しい草履はうら意の圃 角

狐のゆめをい入るは月 棠

加茂川の子を流る瓜茄子 角

推う是あきて小葉外るも 棠

縁よりをふくゆる石の初あり 棠
 本堂よりをひくき念佛 角
 尻キニと同一と南の女房蓮 棠
 箸と手つらんおもしろ 同
 敵とと夜氣のちどり 竜
 心スるよりより帰 全
 彼をたれを由りて紫黒の衣は後
 一り晋子う白めひ念たり
 出ほりやせりて奥ある法は
 肅山

何れも向くと旅の石をあらはし
 七々や朝ひとこを小神多秋 山
 茶衣よりして縁に隅ス三う息よのむを
 此の筋や血の流るる解ころ 全
 秋暑をさる馬の上の人々の旅平懐クイ
 晴る日や笠よるるひく相 全
 葉よよてゆり尋し

いざらんとを雨のいそみ
 かるるやとをのれ撲の元ツク 山
 郎棠

津波近よればまけししの筆もさくみこころ

川舟をさ先へ江口の縮み山

目よあそいねんひをゆるをける

あはれごころのひたふれぬ木槿垣

霧のこもりて雲のうらるる舟は月

鏡のまを立ちあしてを井の原うらるる

ぬくひなちと浪舟とあるそらのみ

たぐのあういふこころをゆる

おぼろのれあもりのあはれ国の縮山

五日とこねく廿一日

檣拍もやけをさそとてはつら山

宿の梢の近つてあはれ

桐のあを妹うかたはえあはれ

石をたやなしてほこえあはれの萩

これと野素直とあはれをゆるをゆる

あはれをゆるをゆるをゆるをゆる

あはれをゆるをゆるをゆるをゆる

あはれをゆるをゆるをゆるをゆる

さばららるるあーらるるあ

あつねのまはら先かんとての山

ゆのれらるるに道か園ありて

あつねのまはら先かんとての山

舟さるるの句なり

入海さるるらるる海さるるらるる角

と付けるは是他局タキヤウのあれも面合オモモはるるなり

あつねのまはら先かんとての山

うつふいてまはら先かんとての山

鴨乃みされ下り奪落る池其角

小舟舟ス拈野の松乃鈴日影彫案

屋根フキ昔フキのけりあつねの山

あつねのまはら先かんとての山

鯉のどみ吐月清るるのき棠

浮雲ウラ流るるあつねの山

もみちりるるる縮流るるモ紅ニ角

うらぬるるるるる相局山

迷惑わづらひのく馬子うまこなるる 袖そで葉は

養やしなをを刺さららしし月つきのの角かく

きれの毒どくののありありとといいははししけけ山さん

おおろろししとといいははししるる寒さむくく葉は

ぬぬきき刀やいばののよよががぬぬるるももここのの角かく

打う節ぶしのの持もちちををつつくく毒どく若わかくく山さん

わわたたしし素す敷しきののああののななををしし葉は

物もの持もちののいいつつ連れん乃の本ほんをを持もちおおくく角かく

小こののももををしし封ふう手てのの角かく山さん

一葉出而一葉巴ハ故ゆゑ為な芭ハ

一葉巴而一葉焦カ故ゆゑ為な蕉カ

了しやうののももああのの葉は敷しきれれをを切きりり 遠水

木き槿しきんのの外そとのの垣かきののるる川がは葉は 岩翁

朝あさのの奠けん都ととと月つき并なら用もちゆゆ心こころ 具角

木きのの葉はのの一ひと葉はのの箱はこ水

おおのの葉はのの上かみ下したのの似に合あひひのの角かく

番ばんのの柱はしら定さだままるる角かく

沖雪のなほは年かぞへしぬへ

けいあろろはくはゆい髪 角

藤七の子の何はラフヒ敷くもさるナキ返 角

終由近ヨの屏風めいぼる 水

こゆキの割キくもキんよキの栗ヒコウカ薑 角

さげ入キの四五文の菊 角

月影の板本尊をキおりす 角

あいの草鞋をキまげて玉キ娘 角

急キとりぬ大脇カシ毛キをキ犬キおキ 角

あつキの雪キまキるキ指キねキ 角

卓タク散サン子キをキるキ奥キのキ庭 角

甬キのキ庭キをキるキ 角

世キのキあキのキ寺キのキ男キをキ出キるキ 水

親キ子キのキしキもキ百キ姓キとキよキぶ 角

心キのキ詞キをキるキ籃キをキ吹キくキ 角

ころキのキあキくキめキきキ肥キるキ原キ 角

葉キのキ石キをキるキ滑キをキ撰キるキ 角

ころキのキもキ耻キをキるキ雪キあり 角

恐ろしい男のつとめをせし肝いり
袴もろもろをくらりしと
新造と年玉扇のけしと
ゆくもくらのほろる警者
臆るも月子守を送るは
花を物をもりて 宗論
刺靴の旗をくらりしと
山崎のくらしのあり
おろし川燕の枯葉をかき流る

煤くくりな近頃の
大箱をのり床の物をぬぐ
お枝をゆりて持てるは

八月十八日

雨甲陰

川つ子楫のよりの夜寒哉
月しろみでくばるる雨
鈍子と花をぬぐるは

仙化

其角

晋船

ひよまをのこし棟上の樵化

初雪を師をよめくあせむ和

ゆこよら年の魁柔物船

人しきもあみておの乳付船

あや日比りもお信心船

ふねをあひえしたのこしめ

おののさのさの菴の豆付

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

おののさのさのさのさのさ

あまのりおそひ子酒くらり吐カ化
 消る身のと味線ひくも殺カみ成る
 しくり龍をほくひ急キと
 周のまを物次セキのせびきる咳拂ヒ
 子を杖チなる老の小便
 ひり所五部の舞入ノり
 むつ色くらむ松風
 名月の竹を定むるノ雀
 かいづととせも大沙の竹
 船 角 化 船 角 化 船 角 化 船 角 化 船 角 化

^{ムキ}貫の〜 幾新はみ断る
 萱イカリの〜 壱 碇 紐
 烏イホの〜 ちいさい猫ハさくもくり
 手イのれづの煙イ氣ダのさあのかゑ
 初華イホの〜 まのれく 氷イホなるの雪
 柳イホの〜 まのれ 荒イホゆひの垣
 船 角 化 船 角 化 船 角 化 船 角 化

下弁の〜
 一 芭蕉菴の月かゝる舟儀イホで美のれを
 名月イホの地イホあつて再とひる
 翁

とくありて形もさういふ出におはるをあらは

客の舟大橋は坊ツカせつらりしれを満り方小

樽也引く名り御さういふる半仙比ズサは故

船ナニのうらも周あてさういふるさういふ

名りしとけの形うめい小舟小 吼雲

あまをさういふ我くそかつ感さういふ耻く九ツを

ゆつてゆりゆり羽北登仙ウタハメトウセンは二字仙化ハのふと

とくさういふ吼ホエえんの心をさういふ連荒けふ半由ハ居

とくさういふらりそのほを秀句後

目待法樂 燭寸 巖翁亭

賑ニギ々々ゆるゆるの菊の秋目ハ 龜翁

廣よお會とと来宵の月 且水

帆柱の入津フネ々々との秋味ハ 岩翁

とくさういふ羅の造も満ウツちやく 其角

庭場あみさくえしは為ハあま 横儿

幕さういふ時を樂屋定ウツする 未陌

羽織さういふ年のさういふお様ハ奴 探泉

京扇さういふゆをさういふ 芒風

形城の海より中 躬る町女房 尺草

おもしろいものごと包む葉紙 岩泉

祈ある神の所植り川掃除 遠水

木強く抱てけり小 篠掛 龜翁

物より色細くそ風つ丸より 且水

根継をくくする寺のあかし 岩翁

祈り六浦の牛よりけを設 寺田

隙あるふよまつり小箱塚 横儿

明ねを湯てありおん乾り雨 未陌

ふみきのほろおをあらま水兔 探泉

ふより桐はひしてほひきおの月 若風

切部 扇の窓存ぬき掛へり 尺中

をのれを飛う蛇う小心 遠水

山雀北尾の流より春日新 龜翁

菴半分を池へ建おん 且の

竹の根の朽てたけいそくあるは 岩翁

車めりあるるこの貝が 岩泉

子あることと幼名をよしの事ありし 採泉
 目とを愛しけりもあはる糸屑 芒色
 物にけいふくあひ葉を結えて 横儿
 我瘦くせりと師兄笑へる 在氷
 風呂敷の同じ摸極を結れよよ 龜石
 眺走をそりよみ 拈較 採泉
 付添も其名を叙りて年位 且あ
 土境へありけり 拍麟流馬 其角
 名目の一取をすませ濁川 入巾

かつちる花かえる葉の形 未陌
 菟ふりてあ合くを秋茄子 芝風
 女使をこつ色 物中 岩翁
 築楯をかゝる浴衣や中もあはる 其角
 火神の勢やう赤の隈く 其角
 緋緑のるるハ産のるるあはる 尺中
 椿を重よみ 柱杖こり 且あ
 人花くのさきといふもあはる 未陌
 蜜柑ひょうを採り懐 其角

綿核サキの終ハシのつらもれ寒サムイの

月を屏シマけりうらみの悪アク 尺中

指ユビへ酒サケのふるむ鄙シノびり 岩

論ロンの多オホクくれを碎クサげぬ米 採泉

此宿ココの脇本陣ワキホンジンのむさうり 水

焼合ヤクガフへり強ツヨクき黒鷲クロシウの声 横ヨコ儿

三
さらけキツ衣キ居イひり 杭キぢりて 岩翁

兼カミ料リョウのり込コみ乃入ノイ汁 其角

庵アチ丁チヨウよりひりひる小コ舟フネ 寺テラ 寺

人は志シ志シけき行ユクんせり 芒キ凡マン

何ナニ代トキりお入イ居イあまを顛テン負ネひる 天テン州シュウ

國クニの判書ハカキをみりあ 岩泉

雪ユキを粒リハちりさよ 遠水

月ツキ見ミ居イ感カンをもち 且カミ水

水ミヅ湯ユをわけて流ナる山ヤマの秋 未ミ陌トク

あまのほろよハる女メ竹タケ杖 岩翁

帯オビのあつ子コのあつ子コの帯 横ヨコ儿

院インの餅モチ子コのあつ子コの帯 採泉

あまの茶臼のまきりりつ世す
となりの位持く花のつよき
橋つ先子小座むすひらける書
岩泉
岩泉
竹打も蟹子おろをも刀け
岩泉
まりなくいおく木の駒次
横儿
奥口と花の栄幾とよしの山
具の
雉の光をみゆる
岩泉
採泉
採泉

浦の庚子上座
之種塩
系飛のなきもあけ
坊を梳
未隔
あまの火燧又用む
老犬
未隔
世るを君のぶくれ
義を重大
岩泉
た右さも何連
掛物の丈
岩泉
酔よのきれほゆる
月おれ
野を
遠水
四條の板を
露の
未隔
振袖はすし
糖くる
急のあや
横儿
胸紐付か
後の
久宮
まね

あるこの花をさるる途に大馬店 尺紳

導者いささちる春の昆布賣 松翁

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 威師の言利休の茶の湯のあひて事をね

ひまゆうそのおろしの及るを済

是を古之是を新とて自をとりて

ほめあひるねを利休敵と不真とて新

古乃自利^ナにあましくひくちあましたるを好

むもよりしつら^{カケ}欠措鉢^{カケ}のりとも時

みよりく茶の湯の用やまの用ひしは

はるるのさういさを^ナあて物敷あて

ほむ^ナあてありさうの御説もこのは

庭籠の梅のほほむる月次紙 船

ちいさき 鑊コシをやまふ 孔窓 角 船

あるじる色紙の泥のうらむ舞 船

舞臺の夜をもしん代昌サカキ 角 船

男も似ぬ女なりたり 能太夫 船

あさづまの舟 雙日返る 角 船

潮シホ煮ホも辛くぬる味 鯛の味 船

手玉あかして 孔のこりん 角 船

桐糸桐の垢アカ色いよふあはれや 船

北野の増馬 花見のこま 角

湯床のくねりころ 口あぶら 船

いよゝ志すの 市鳥 啼 角 船

月やまよは江のこもれ 悠ナシと 船

旅もあはれて 任し舟才三 角 船

けびを文くするのこつ 全 角 船

二日すく目えうとを髪髪の香 船

安持佛くやじゆんもちひむ 角 船

さくら所 桐のこ 船

目病とも門子^カある船日乳
 子^カより志^カぼく^カ瘦^カ犬の乳
 山の井の心^カを^カれや^カ旅の汁
 新の自^カま^カめ^カし^カり^カ花
 振袖を^カ刀の^カら^カま^カす^カけ^カ
 是を^カら^カは^カら^カし^カこ^カお^カし^カ人^カ盞
 波^カの^カ波^カの^カ泊^カを^カ志^カし^カり^カ
 波^カと^カ身^カ井^カの^カ穂^カを^カある^カか
 箱^カ刈^カし^カ物^カ尾^カより^カくる^カ罌^カの^カ精^カ
 余 船 角 船 角 船 角 船 角

家としていくつ武蔵^カ妙^カの^カ国^カ府^カ
 市^カへの^カ肩^カ子^カ棒^カを^カ志^カし^カり^カ子^カ
 南^カ風^カを^カ依^カ横^カを^カり^カる^カ海^カ
 咲^カ花^カ乃^カほ^カを^カろ^カく^カる^カ塩^カ燗^カ
 よ^カの^カよ^カし^カの^カよ^カめ^カ新^カ冠^カ青^カの^カよ^カと
 角 全 船 全 角

大坂の記

馬鞍の海を渡る 雪女 具角

既あが 目もろく 白草カハの長谷 法蓮

暖より京を羽織をまきく 今

鈴もく 障子 展める 角

山一う 皆 泣く 七夕 自取 今

小朱 櫻を 志願し しく 散る 蓮

柳の 目も けり 夕 夏 念仏 角

夫オトコ 起し ちきり けり 蓮

かし 点六 梅物 多し 上 総舟 角

敷く色行よりけり紙考 蓮
 治所の端を其海より 蓮
 振袖の袴筆よりある摺ちび 蓮
 いろゆる煙を尺八より 蓮
 ねゆきさうのさあがる片ねを 蓮
 を要あまきど都をりり 蓮
 子を詞^{ヒカ}くしり音のせしき 蓮
 ひろよなたあより窓ぬくれあ 蓮
 交車やらん物もつる土用干 蓮

心々 酒色 女 禁制 角

池月のみうらやまのけり 蓮
 我の調^{ヒカ}の華色 炮^{ホウ}しる 角
 小使所より遠きり 蓮
 みしめ隈^{ヒカ}をも忍^ニみ 育^{アキ}育^ヒ 蓮
 其像子もあてききる 爪^{ツメ}白髪 角
 小返のちりれ美子より 蓮
 魁^{ケイ}範^{ハン}の菴^{アン}り 祐^{ユウ}むの奥 蓮
 花のひよりを日中の燈 全

節分

折つ豆も戸のあまる方の響哉 亀翁
豆をまゝり巻のりち形る笑ふ 其角

元禄辛未歲内立春日於狂而堂燈下書
芭蕉翁回國歸菴時宜相應故被校合早

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

中か〜盛國大酒さ〜平の
苗泉はよさ〜も〜名〜
人〜集めお〜物海〜
〜大國馬双帯〜書〜
〜た〜
〜と〜
人〜上〜
〜
〜
〜

大坂書林庶寫猷可堂藏版目錄

浪義書坊

通宝町二丁目

次郎市兵衛

北久右衛門心齋橋筋

塩屋忠兵衛

江坂書坊

通宝町二丁目

次郎市兵衛

大坂書林庶寫猷可堂藏版目錄

七支子詩集

小本 一冊

同 掌故

三冊

同 註解

傷寒五法

五冊

同 國字解

二冊

同 七律解

二冊

詩法授幼抄

小本 一冊

詩對類

五口同 全 一冊

詩家法語

熟筆全 一冊

芥介集

詩聯善書全 一冊

詩對類

五口同 全 一冊

詩家法語

熟筆全 一冊

發蒙書東式

三冊

尺牘ノヒキメヤウ糸ノ尺牘ニ用テ熟字

名家名譽書式初集ノ知蒙書ノヒキ

十家墨屋和月ノ住持ノヒキノヒキ

町見辨

西川氏 五冊

三界一心記

一冊

將棊指覽抄

小本 二冊

神代古訓抄

無

狂歌芳分船

一冊

農家心得草

一冊

繪本廿四孝

一冊

書目録

和歌桐火桶 二冊

新元法 一冊

花巻城新編 二冊

同拾巻 二冊

其角雜俎集 二冊

同元集 四冊

貞徳御抄 二冊

日 家集 五冊

傾阿日叢句 一冊

芭蕉五古文 二冊

殊六 雅文消息 一冊

半化坊叢句集 二冊

撰長七級集 一冊

月の歌 一冊

試七 一冊

俳諧小づち 一冊

同季歌 二冊

同拾巻 一冊

同小休 一冊

同松松抄 一冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

同流竹 二冊

同新 二冊

歌水発句集 二冊

藍村發句集 二冊

二柳菴句集 二冊

西賢集 二冊

俳諧分載 六冊

教句集 一冊

より大打 一冊

毛吹草 一冊

片香及此 一冊

同二歌回 一冊

俳諧分載 五冊

新五子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

新季子稿 一冊

三帖御和賛 暹中抄本 抄本

西流の所章とちがひなるやうに有上段下段の
三つ外に一つは正信傳海入御代付入
心も揚もたず正信傳海入御代付入

釋迦如來一代記に吹 全八冊

如來所一代の有徳大志小志の法清法慧
三つ外に一つは正信傳海入御代付入

三教經系經 四冊

三聖利益傳 五冊

備隨考上人所一生の所記並の在末と云
考彼

漁倉屋中同巻 一冊

諸考徳余屋中同巻一巻並の在末
考彼

夢神問巻 一冊

月 二冊

經學字海便覽 三冊

世書五種大極の俗漢字の解しと從書
と教も其其後と考彼行末と考彼

唐詩帖 廣澤書 一冊

唐詩帖 廣澤書 一冊

裁衣便覽

懷中折本

けき指布のなごを幅物より裁衣便覽
のりこ其寸尺を合し裁衣便覽と考彼
りしと裁衣もの何れと考彼

東野刈聞書

全二冊

けき常縁收年の成り軍家小初社の御和
服衣に及べ冷泉の流と似て茶室茶室
向とはさういれぬ裁衣より又考彼
けの指布裁衣と眼より考彼

茶器辨々集

全三冊

茶器の考を考彼と考彼の考を考彼
考彼の考を考彼と考彼の考を考彼
考彼の考を考彼と考彼の考を考彼

繪本二十四考

法橋玉山画

全三冊

右の三十二考は実況教養と教養
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

同増補二十四考

全二冊

右の三十二考は実況教養と教養
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

諸國武邊嘯

全六冊

集外を考彼と考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

扱の記

鳥居書 一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

國字帖

日書 全二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

熟字府

天山書 二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

はなとく

北村季吟著 八冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

鴨長明益名抄

長明作 二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

中井梵菴著

一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

非なるべし

曹川撰圖書 二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

播磨巡り

山本一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

開卷一笑

全二冊

唐詩の通りと行末考彼と考彼
合点のゆゑと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

茶湯名物記

全三冊

けき法名茶湯名物記と考彼と考彼
後考小考の御傍の考と考彼
けき一考考彼の考索にたよりけ

俳諧浪卷風流

全二冊

高村藩りの御法風と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

俳諧初心玄

全一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

俳諧三部経

全五冊

高村藩りの御法風と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

口ぬきは集

全四冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

讀留室鑑

二冊

番報大蔵高徳の抄と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

使用規

一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

煎茶仕用集

二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

萬葉産功記

一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

上養和歌集

二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

担言活玉集

二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

天文八卦抄

一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

漁倉屋実記

十二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

歌曲早引酌

一冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

和漢朗詠集

鳥居書 二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

刪笑府

二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

庭訓社来抄

二冊

かみおとめと考彼と考彼と考彼
考彼と考彼と考彼と考彼と考彼

